

令和6年司法試験合格体験記

令和4年度修了（既修コース）山岡 大道

1. はじめに

私は、2021年4月に岡山大学大学院法務研究科の既修者として入学し、修了後1回目の令和5年度司法試験に落ちた後に、2回目の令和6年度司法試験に合格しました。1回目の司法試験と2回目の司法試験では、受験勉強の取り組み方に違いがあったので、合格体験記として書き残しておこうと思います。ただし、あくまで1つのサンプルに過ぎませんので、鵜呑みにするようなことはおすすめしません。何らかの参考にしていただければ幸いです。と書いて記述しています。

2. 合格体験記

私が在学中に取り組んでいた学習方法として、司法試験上位合格者の再現答案をトレースするということをやっていました。成功者の思考過程を自分自身に取り込むことで合格圏内に入ろうと目論んだのです。しかし、これは実際には自分には不可能なことでした。上位合格者は2時間（選択科目は3時間）という厳格な時間制限の中で、素早く問題文から要点を抽出し、的確な法律構成を採用し、充実したあてはめを行って結論を導いています。一見すると法科大学院の演習授業でやっていることのように見えますが、罨です。一般の受験生が司法試験の現場でやすやすとできないからこそ、彼らは上位合格者なのです。1回目の司法試験は、とにかく答案を充実したものにさせようと考えて取り組みましたが、時間も内容もあと一歩足りず不合格となりました。

他方で、不合格だった年の成績表を見ると、分量や内容が不十分だと思っていた科目がA評価やB評価をもらえていました。この経験を経て、私は答案の中身を充実させる必要はないのだと悟りました。翌年の勉強方法はとにかく答案を簡単・コンパクトにすることを意識するようにシフトしました。規範は短ければ短いほどいい。使う言葉は簡単であればあるほどいい。あてはめは問題文を書き写さなくとも要約したものを書けば伝わる。このような試験への向き合い方が合格に向けた最短ルートだと、私は信じています。